

平成27年度

事業報告書

4. 事業

(1) 発掘調査

平成 27 年度発掘調査受託事業収入の当初予算額は、930,160,000 円であったが、調査の進捗状況等により、最終的に契約金額 853,630,400 円（契約件数 19 件）となった。

区 分	当初予定	契約実績	差異
受託事業費（千円）	930,160 千円	853,630.4 千円	△76,529.6 千円
契約件数（件）	21 件	19 件	△2 件
発掘調査（北部）	2 件	2 件	0 件
発掘調査（中部）	3 件	3 件	0 件
発掘調査（南部）	9 件	7 件	△2 件
合 計（件）	14 件	12 件	△2 件
遺物整理（件）	7 件	7 件	0 件

なお、調査を実施したもののうち、特に顕著な調査成果が得られているものは、下表のとおりである。現地説明会は 5 回実施し、参加総数は 578 名である。

番号	遺 跡 名	所在地	主 要 遺 構 等	時 代
1	寺町旧域・法成寺跡	京都市上京区	天正 18 年から元禄 6 年の墓壇約 250 基を検出し、500 点以上の石仏、五輪塔、一石五輪塔、墓石が出土。寺町形成期の「常念寺跡」に関する遺構	安土桃山・近世
2	下水主遺跡	城陽市寺田	弥生時代末から古墳時代初頭の溝一辺 1.4×1 m の木枠に棧木と檜皮状の木皮で組まれた木製品出土	弥生～古墳
15	平安京跡	京都市上京区	安土桃山時代土坑、井戸等幕末期京都守護職上屋敷跡	安土桃山・近世

調査報告書については各 300 部印刷し、以下のとおり刊行した。

『京都府遺跡調査報告集 第 164 冊』	3 月刊行
『京都府遺跡調査報告集 第 165 冊』	3 月刊行
『京都府遺跡調査報告集 第 166 冊』	3 月刊行
『京都府遺跡調査報告集 第 167 冊』	3 月刊行

(2) 普及啓発

(ア) 埋蔵文化財セミナー

埋蔵文化財セミナーは、次のとおり実施した。

回数	開催日	実施内容	会場
130	平成 27 年 8 月 22 日 (土)	<p>『京都「交流」の考古学 ―縄文・弥生・古墳時代の交流史―』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代の“京都”における交流 ―主に府内の遺跡からみた地域間交流― 当センター 主 任 加藤雅士 ・弥生時代の“京都”における交流 ―新しい文化の伝来とクニの誕生― 当センター 総務課長 肥後弘幸 ・古墳時代の“京都”における交流 ―日本海と瀬戸内を結ぶ道― 当センター 課長補佐 細川康晴 ・シンポジウム 石野博信理事 	向日市民会館 (参加者 94 名)
131	平成 28 年 2 月 20 日 (土)	<p>『京都・三都城ものがたり』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恭仁宮跡の発掘調査成果について ―最古級の正月行事を示す遺構― 京都府文化財保護課 古川 匠 副主査 ・長岡京跡の発掘調査成果について ―右京第 1117 次調査を中心に― (公財)長岡京市埋蔵文化財センター 木村泰彦 総括主査 ・平安京跡の発掘調査成果について ―左京八条三坊九町の調査― 当センター 福山博章 調査員 	長岡京市立産 業文化会館 (参加者 80 名)

(イ) 設立 35 周年記念事業

やまごころとからざえ

・展覧会：「和魂漢才―京都・東アジア交流の考古学―」

国・府指定物件などの優品を含め、東アジアや交流によってうみだされた考古資料を中心に、パネルなどを使用して、わかりやすく展示。

京都文化博物館 2 階総合展示室で平成 27 年 11 月 28 日(土)～平成 28 年 1 月 11 日(月・祝)まで開催。(観覧者数 約 13,000 名)

やまごころとからざえ

・シンポジウム：「和魂漢才―京都・東アジア交流の考古学―」

平成 27 年 11 月 29 日(日) 会場：向日市民会館 (参加者数 190 名)

あいさつ

理事長 上田正昭

記念講演

- 「古代東アジアと京都盆地」 理事長 上田正昭
「遣唐使“廃止”後の京都と東アジア—平安王朝の背後世界—」 理事 井上満郎

基調講演

- 「飛鳥・奈良時代における東アジアの影響—仏教文化を中心に—」
京都府立大学教授 菱田哲郎

基調報告

- 「考古資料から見た奈良・平安時代における東アジアとの交流」 主査 筒井崇史
「中世における東アジアとの交流」 副主査 伊野近富
シンポジウム 「和魂漢才—^{やまとごころとからぎえ}京都・東アジア交流の考古学—」
進行：理事 上原真人
パネラー：井上満郎・菱田哲郎・伊野近富・筒井崇史・細川康晴

刊行物

・記念論文集

『京都「交流」の考古学』と題して、Ⅰ. 東アジアの中の京都、Ⅱ. 地域間交流と京都、Ⅲ. 学際化する文化財研究の章立てで刊行した。 550部

(ウ) 機関誌

機関誌『京都府埋蔵文化財情報』は、次のとおり刊行した。

第127号	9月刊行	1,500部
第128号	1月刊行	1,500部
第129号	3月刊行	1,500部

(エ) 共同研究

今年度は、以下の共同研究を実施した。(○は代表者)

- ① 弥生時代有孔土器の再検討
○桐井理揮、菅博絵、岡村美知子、小池寛
- ② 日本海周辺地域における弥生時代後期～古墳時代初頭の地域間交流
—木製品と土器の再評価—
○高野陽子、福山博章
- ③ 日本海沿岸出土の輸入陶磁器
○綾部侑真、伊野近富、竹村亮仁

(オ) 考古学講座

「関西考古学の日」関連事業として、夏休み考古学体験講座を4回開催するとともに、秋の考古学講座を2回実施した。参加者は延べ386名であった。

また、向日市まつりに、公益財団法人向日市埋蔵文化財センターと共催で「拓本にチャレンジ！—美しい拓本との出会い—」を運営した。

	開催日	講師	テーマ	受講者
1	8月5日(水)	小池 寛 岡村美知子 菅 博絵	「勾玉をつくろう！」	193名
2	8月6日(木)			
3	10月3日(土)	菅 博絵	「東アジアから見た環頭大刀」	25名
4	10月31日(土)	小池 寛	「東アジアから見た前方後円墳」	25名
5	11月14日(土) ～15日(日)	肥後弘幸 小池 寛 田中 彰 伊賀高弘	向日市まつり(共催行事) 「拓本にチャレンジ！—美しい拓本との出会い—」	143名

5. 職員研修

(1) 専門研修

外部研修として、全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会や同協議会近畿ブロックが開催する研修会や文化庁が主催する講習会などに参加した。

(2) 一般研修

当調査研究センター人権研修推進委員会が中心となり、職場研修を実施した。また、加藤雪香理事を講師に迎えて人権研修を実施した。

外部研修として、京都府教育庁主催の人権問題研修会及び公益財団法人世界人権問題研究センター主催の「人権大学講座」等を積極的に受講した。